

新鮮な「ねぎお君」をより多くの消費者へ届けるプラン

～安定経営、周年雇用～



ねぎお君。

平成 29 年度
作成者 平田 豊

平成 28 年 1 月 1 日 世代交代

平成 28 年 2 月 24 日 農業経営改善計画認定

1. はじめに
2. 農業経営の現状
3. 課題と対策
4. 地域への波及効果
5. 農業経営の見込み
6. 具体的な取組と役割分担
7. 支援事業の内容

1. はじめに

(1)就農まで

私は、子どもの頃から作物に触れ、農業を営む父と祖父の背中をみて育ち、農業の道へ進むあこがれを常に抱いていました。もちろん、仕事内容は楽なものではないと充分にわかっていたが、祖父が年老いていくにつれ、今度は自分が手伝っていく番だと思い、平成10年(20歳)に就農することを決断しました。

(2)就農当初は、西瓜栽培が中心

就農した当初は、主に西瓜を中心に、米、(西瓜の裏作として)ストックの栽培も行ってきました。ストックは、一重と八重が見分けにくく、栽培が難しかったので、平成15年に西瓜の裏作を青ねぎ栽培に変更しました。

その頃、1年を通して、西瓜と青ねぎを栽培していく上で感じたことがあります。それは、西瓜のために半年近く空けておかなければならないハウスがあることです。これを改善するためには、1年を通してハウスを空けることなく作れる青ねぎを栽培の中心にすることだと思い、青ねぎと小松菜の生産者(約15ha)、広島県広島市の中川和義さんのところに視察に行き、独自の栽培方法と出荷体制に衝撃を受け、中川さんを目標にしたいと思いました。

(3)平成17年より青ねぎ栽培が中心～平成21年チャレンジプランねぎ洗浄機導入(父)

結果、平成17年に一年を通して収穫できる青ねぎ栽培を中心とした経営を開始しました。視察先の中川さんの出荷調整作業場にはコンベアーと全自動結束機があったので、まず、自作のコンベアー2レーンを試行錯誤して作りました。

平成21年にチャレンジプランで、ねぎ洗浄機を設置し、大量出荷ができるようになったので、これまで作業場の1階のみを作業スペースが狭くなったので、2階にも作業スペースを作り、より広くなるよう改造しました。2階に作業スペースを作ることで、スムーズな流れ作業が確立されました。

平成23年には、父が優秀経営農林水産業者園芸(野菜)部門で受賞しました。

(4)ねぎ洗浄機導入後～平成28年世代交代

ねぎ洗浄機導入により、出荷量が増加したので、直播栽培(播種～収穫まで3か月)を定植栽培(定植～収穫まで2か月)に変えることで栽培量を増やしました。平成24年からは、「ねぎお君」(商標登録済み)というキャラクターを作成し、袋、箱に印刷して自社のPRをしています。そして、仕事の経験を積み、父の勧めもあり、平成28年に世代交代となりました。



(5)今後

「5年後の平成33年に、平成28年の青ねぎ年間出荷量の1.26倍を目指す！」

出荷調整機械や栽培関係の機械整備を行い、年間出荷量2割増を効率的に行っていきます。今後のビジョンは、さらなる規模拡大です。その規模拡大に相当する栽培管理や出荷調整の機械設備は、現状のものでは対応しきれません。さらに、作付面積が増えれば、圃場の管理に時間を費やします。

今回の事業による機械導入で、出荷調整作業の時間短縮をし、圃場の見回りや作業を行うための時間を作ることが可能となります。

県内に年間を通して出荷した「ねぎお君」を最寄りの店でよく見かけるようになりました。しかし、県内出荷に関しては、現在の数量以上の出荷量を提案しても受け入れられにくい状況です。

一方、県外の出荷においては、加工会社「やおき」への契約出荷依頼があり、契約出荷しており、また、大阪府「わらべうた会」も同様の状況であり、契約出荷しています。「やおき」に関しては、現在の契約量よりも増やしてほしいという要望があるが、現状の規模や出荷体制では、これ以上の出荷量に対応できない状況です。県外では、青ねぎの生産量が足りず、他県からの仕入れを視野に入れておられます。

今後、出荷量を拡大していくために、県外へは、福岡県「やおき」、大阪府「わらべうた会」の出荷量を増やしていきます。また、県内出荷でも、農協を通して今以上の出荷量を確保します。

これまで、県内外ともに契約を開始してから一度も出荷を切らしたことがなく、相手先から信頼を得ているので、引き続き、この信頼を維持した上で、規模拡大に繋げていき、県内はもちろん、県外にも出荷することで、「ねぎお君」をより多くの消費者へ届けていきます。

世代交代後、初めての青色申告決算書を作成して思ったことは、今の所得からすると、法人化をした方が節税できるかもしれないということです。今の自分の状況から、法人化することで得られるメリットが大きいならば、今後、法人化を検討していきたいです。

また、GAPに取り組んでおられる親戚の方から話を聞く機会があり、自分もGAPに取り組んでいこうと思いました。実施することで、やらなければならないことが明確になり、自主的に行動する従業員が増えるだろうと考えたからです。よりよい職場づくりのために、これからも様々な機関との連携を密にして、積極的に取り組んでいきます。

2. 農業経営の現状

(1) 作付け実績

(単位：a)

作目		H26	H27	H28
青ねぎ (延べ)	露地	179	238	240
	ハウス	221	295	295
	計	400	533	535
水 稲		410	410	410
西 瓜		16	16	30
合 計		826	959	975

(2) 主な栽培作物とその品種

作目	品 種
青ねぎ	パワースリム (3月中旬～10月中旬)
	緑秀 (10月下旬～3月上旬)
西 瓜	春のだんらん
	筑波のかおり
水 稲	きぬむすめ
	こしひかり
	日本晴

(3) 労働人数と時間

労働人数	12名 (家族4名、正規従業員7名、パート従業員1名)
1人当たりの労働時間	48時間/週

(4)栽培体系

[ハウス栽培] ※密植による定植…平成28年12月より試作開始し、平成29年11月に反収を確認した。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	実績値 (H28)		計画値 (H33) ※密植		
												作付面積(a)	収穫量(t)	作付面積(a)	収穫量(t)	
													反収1.36t		反収1.36t×1.2	
●		▲		■									25	3.4	25	4.1
	●		▲		■								24	3.3	25	4.1
		●		▲		■							25	2.7	26	3.4
			●		▲		■						25	2.7	26	3.3
				●		▲		■					25	2.7	26	4.2
					●		▲		■				21	2.9	22	2.9
						●		▲		■			20	2.7	21	3.4
							●		▲		■		34	4.6	35	5.7
■								●		▲			24	3.3	25	4.1
	■								●		▲		24	3.9	25	4.9
		■								●		▲	24	3.9	25	4.9
			■								●		24	3.9	25	4.9
				■								●				
合計												295	40.1	306	49.9	

○：播種 ▲：定植 □：収穫 緑色：緑秀 赤色：パワースリム

[露地栽培] ※密植による定植…平成28年12月より試作開始し、平成29年11月に反収を確認した。

※収穫時期が12月～翌年3月まではテントをかけている。冬場は気温が下がり成長がゆっくりとなる。また、積雪があるため、冬場の露地栽培は、雪による被害を防ぐためのテントを張るスペースを多くとるので畝の数が減り、冬場の栽培量は他の時期よりも減少する。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	実績値 (H28)		計画値 (H33) ※密植		
												作付面積(a)	収穫量(t)	作付面積(a)	収穫量(t)	
													反収1.36t		反収1.36t×1.2	
●		▲		■									24	3.3	25	4.1
	●		▲		■								24	3.3	25	4.1
		●		▲		■							24	3.3	25	4.1
			●		▲		■						59	8.0	39	6.4
				●		▲		■					20	2.7	39	6.4
					●		▲		■				20	2.7	21	3.4
						●		▲		■			19	2.6	21	3.4
							●		▲		■		10	1.4	12	2.0
■								●		▲			10	1.4	12	2.0
	■								●		▲		10	1.4	12	2.0
		■								●		▲	10	1.4	12	2.0
			■								●		10	1.4	12	2.0
				■								●				
合計												240	32.6	255	41.6	

○：播種 ▲：定植 □：収穫 緑色：緑秀 赤色：パワースリム

3. 課題と対策

(1)出荷量の確保と出荷調整時間の見直し

【課題】

- ・ 出荷体制の効率化。現在の契約出荷は県内を中心に出荷しています。今後、県内出荷量を増やすと溢れてしまいます。そのため、県外出荷との契約量を増やしたいが、今の出荷体制では十分なケース数が確保できません。

【対策】

- ・ 作業速度の向上。全自動結束機一式を（平成30年7月までに）導入します。
- ・ 出荷調整の結束を手作業から全自動結束機に変更し、作業スピードを上げます。現在、洗浄（1名）からスタートし、その後、計量がしやすいように外葉取（1.5名）を配置し、次に、100gに計量（3.5名）したものを結束（2名）、袋詰め（1名）をして、M、L、2Lのサイズに選別し、30束ずつ箱に詰めます（1名）。この作業工程のうち、結束作業を機械化します。この機械導入により、計量は5名となります。
- ・ 現在のベルトコンベアは自分で作り、出荷量を確保できるようになったが、手作りなのでトラブルが起きます。そのため、精密に作られたベルトコンベアを導入します。

(2)マニアスプレッダと積載車について

【課題】

- ・ 栽培管理の堆肥振りですが、現在使用中のけん引式マニアスプレッダは、安全面と高度な技術と大型特殊免許、けん引免許を必要とするので、自分しか作業できません。
- ・ 雨天の場合、ハウスでパイプ際を走行すると、はまってしまうことがあります。さらに、けん引式なのでハウスに入る時に道路にて他の走行車の妨げになります。受け入れが多いときは、堆肥置き場に沢山溜まってしまうことがあります。この堆肥を水田にも利用したいのですが、今のけん引式マニアスプレッダでは、はまってしまうので諦めています。
- ・ 各作業機*の移動時間の効率化。各作業機*を使用する際、それらの保管場所から畑への移動だけでも、時間と労力を要します。また、畑が分散しているため、各作業機*は軽トラに載せたり、自走させて移動しています。

【対策】

- ・ クローラータイプのマニアスプレッダを導入します。クローラータイプなら、雨降りのハウスや水田（水稻）でもはまりにくく、使用する際にトラクターにつなげてけん引しなくてもよくなります。また、けん引免許がいらず、自分以外の従業員でも操作が可能となります。さらに、マニアスプレッダで堆肥を振りながらトラクターで耕うんでき、効率的に作業することができます。現在、堆肥置き場に牛糞、鶏糞の堆肥の受け入れがたくさんあり溜まっていたが、マニアスプレッダがクローラータイプとなると、水田にも利用できるようになるので、堆肥が有効活用できるようになります。
- ・ 積載車を導入します。各作業機*を積載車に載せて移動すると、圃場間の移動時間の短縮ができ効率がよくなります。

※各作業機とは…定植機、マルチャー、管理機、運搬車、ハイクリブーム、田植え機、コンバイン、マニアスプレッダ、
トラクター

(3)育苗ハウスの改造とその管理体制

【課題】

- ・作業場で種まきしたセルトレイを、軽トラックに載せて育苗ハウスまで運び、一つずつ並べていく作業は、労力と時間がかかり効率が悪いです。
- ・1棟の育苗ハウスで管理すると、一部分から発生した病気が広範囲に拡大しないように、育苗ハウス全体に消毒をしなければならない。
- ・苗で埋め尽くされた育苗ハウスは1棟しかなく、夏場は生育段階別の細かい対応が必要なので、発芽した苗（播種から発芽までのハウスで育つ）は、発芽後には、その生育段階に対応できるハウスに移動させています。育苗管理においては、日々の栽培管理、出荷調整作業に追われ、育苗のための水やり・温度調節の徹底ができておらず、発育に支障が出る場合があります。各段階（播種後、発芽後、定植前）に合った管理体制を作る必要があります。（悪い状態の苗は、定植機で植えられず人の手によって補植しています。）

【対策】

- ・現在の育苗ハウスと栽培ハウスの2棟を改造し、この2棟を6分割にします。これによって、育苗ハウスの面積は5a→10aに拡大し、6棟に分割することで、うち1棟を種まき作業スペースにし、残り5棟は、播種時期に区分することが可能となり、播種後の生育段階に合った管理ができ、状態のよい苗が育つので、定植機による捕植が大幅に減ります。

(4)堆肥置き場について

【課題】

- ・堆肥置き場として使っている場所は畑なので、雨が降ると堆肥を十分に乾燥できず、きちんと発酵させることができません。さらに、家畜排泄処理法の観点から、堆肥が周囲に流出して、水質汚濁を招く恐れがあります。
- ・堆肥置き場には、（北条地区のIさん、湯梨浜町のIさんより）鶏糞と（大栄地区のYさん、Uさんより）牛糞と（北条地区、大栄地区のカントリーエレベーターより）すくもを受け入れています。定期的に受け入れの連絡を頂くので、十分な量が確保できて大変助かっています。これらの堆肥は品質の良い青ねぎを育てるためには必要不可欠です。

【対策】

- ・コンクリートの基礎と屋根を設置します。また、堆肥置き場に隣接する現在の物置用ハウスに基礎を作り、ハウス堆肥置き場も作ります。
- ・よって、雨等の天候による堆肥のしみ出しを防ぎ、良質の堆肥を作れるようになります。
- ・受け入れた堆肥は、堆肥置き場で堆肥作り～乾燥まで行った後、隣接したハウス堆肥置き場へ運び、随時使用していきます。

4. 地域への波及効果

(1)雇用就農者の育成、および今後の雇用の創出について

農の雇用事業の活用により、研修生が農業の栽培技術等を学べる職場として、人材育成を引き続き行っていき、従業員のスキルアップに繋げていきます。

今回の事業は、規模拡大のための基盤作りだと考えています。今後、出荷量を増やし、それに伴い、雇用を増やしていきます。

(2)西瓜の裏作

毎年、同じ地域で西瓜作りをしておられる方の一部ハウスを西瓜の裏作としてお借りしています。まず、土壌消毒をし、堆肥を入れ、裏作としての青ねぎを作らせてもらっています。この堆肥を入れることと土壌消毒をする工程をハウスの持ち主の方にとっても喜ばれているので、今後も継続して実施していきたいです。

(3)地域の耕作放棄地を未然に防ぐ

同じ地域の方より、これまで農地を利用してほしいという沢山の依頼があり、現在、作らせてもらうことになりました。今後も積極的に取り組んでいきたいです。

5. 農業経営の見込み

(1)経営面積（青ねぎ・水稲・西瓜）

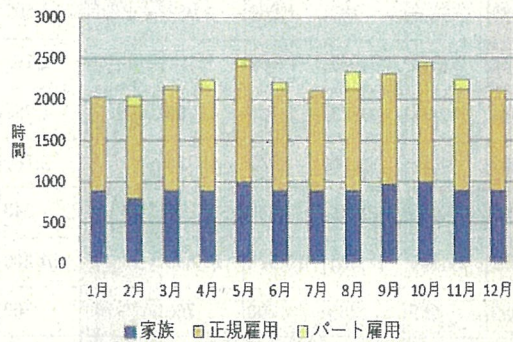
(単位：a)

作 目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
青ねぎ (延べ)	露地	179	238	240	230	241	241	246	255	255
	ハウス	221	295	295	306	296	297	301	306	306
	計	400	533	535	536	537	538	547	561	561
水 稲		410	410	410	500	500	500	500	500	500
西 瓜		16	16	30	30	30	30	30	30	30
合 計		826	959	975	1066	1067	1068	1077	1091	1091

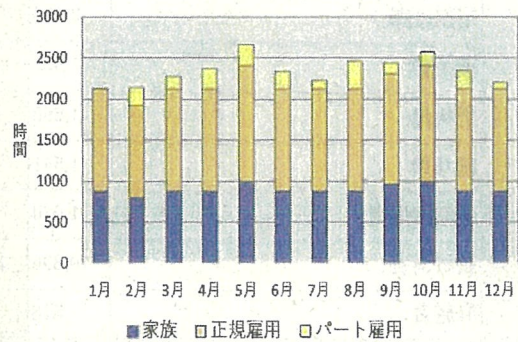
(2)労働力

項目		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
労働 人数 (人)	家族	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	従業員	正規	5	5	7	7	7	7	7	7	7
		パート	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	10	10	12	12	12	12	12	12	12	
1人当りの年間労働時間(h)		2,261	2,246	2,225	2,347	2,292	2,256	2,291	2,346	2,346	

平成28年 家族と雇用の労働時間



平成33年 家族と雇用の労働時間



(3)売上

(単位：千円)

作目	
青ねぎ	
水稻	
西瓜	
計	

○今回の事業で機械を導入すると、栽培量・出荷量増加、販売金額の上昇が見込まれます。本事業後も引き続き、作付けの面積を増やしていく意向です。平成34年から徐々にですが、露地にハウスを増設し、最終的には露地栽培を全て、ハウス栽培に変更し、日々、努力を積み重ねていきます。

(4)収支

(単位：千円)

項 目		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
収 入									
経 費									
所得									

6. 具体的な取組と役割分担

内容	H30	H31	H32	事業主体	連携機関
全自動結束機の導入	◎			本人	県、町
ベルトコンベア	◎			本人	県、町
作業場の補強工事	○			本人	
マニアスプレッタの導入		◎		本人	県、町
積載車の導入		◎		本人	県、町
育苗ハウス改造(かん水設備)			◎	本人	県、町
堆肥置き場の整備			◎	本人	県、町
雇用就農者の育成	○	○	○	本人	農の雇用事業
品質向上	○	○	○	本人	普及所
GAPの取り組み	○	○	○	本人	普及所
自社ブランドのPR継続	○	○	○	本人	
地域の耕作放棄地の活用	○	○	○	本人	農業委員
法人化の検討	○	○	○	本人	農業会議

7. 支援事業の内容

(単位：円)

年度	項目	事業費	事業費 年度別合計	負担区分			消費税
				県 (1/3)	町 (1/6)	本人 (1/2)	
H30	全自動結束機	6,351,853	10,000,000	3,000,000	1,500,000	5,500,000	800,000
	ベルトコンベア 2台 (大、小、工事費含む)	3,648,147					
H31	マニアスプレッタ	3,950,000	10,450,000	3,000,000	1,500,000	5,950,000	836,000
	積載車	6,500,000					
H32	育苗ハウス改造 (かん水設備)	4,377,020	9,851,237	3,000,000	1,500,000	5,351,237	788,099
	堆肥置き場 136.32㎡	5,474,217					
合計		30,301,237	30,301,237	9,000,000	4,500,000	16,801,237	2,424,099